

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

うぐいす

日付 平成 21年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名**

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

訪問調査の日の朝、私たちと一緒にの時間に可愛い保育園の園児20数人がこのホームを慰問に訪れていた。うぐいすのユニットに隣の愛夢の里ユニットからも利用者が集まり、リビングルームに2列に座って園児を迎えていた。園児も利用者も最初の対面、少しかしこまった表情である。今日初めての訪問らしい。

園児は歌を歌ったり、タンバリン・鈴・カスタネットでリズムをとったり、一人ひとり順番に名前と好きな食べものを紹介してご挨拶、おじいさんおばあさんと一緒にじゃんけん遊びや肩たたきをして、ようやく打ち解けた間柄となり、利用者からも笑顔が出始めた。やっぱり笑顔満面でかわいらしい訪問者を抱き込んだり、手を握りしめ、喜びを身体で表現できるようになった。次にホーム側からお礼に、園児と利用者一人ずつコンビになってゲームを始めた。ボールを投げて、入った所に書いたモノマネをして楽しむ。園児も皆でそのゲームを楽しんでくれた。利用者も最高の気分になってきた。お礼のお菓子を渡して、全員で写真撮影をして、なごりを残して園児は帰って行った。

大勢の男の子と女の子の訪問で、皆で楽しんだ約1時間半は、利用者にとってもこんな良い時間は忘れられないだろうと思うが、残念ながら殆どの人の記憶には残っていなかった。認知症の人への思いやりは、瞬間で良いから楽しんでくれれば良いと言われているが、何か空しい気持ちがある。

昼食の前、利用者の3人の女性利用者から「あなた、去年も来てくれたでしょう。憶えてるよ」と言ってくれた。確かにこのユニットを訪問し、このユニットで遊ばせてもらった。ボール投げをしている利用者の輪に入ってボール投げした時に、私に思いきりボールを投げて、何か本気で遊んだことを憶えている。感情を伴った行動をした時は、認知症になっていても記憶に残っていることをしばしば体験したことがある。

今日は保育園の園児が来るので、職員がそちらに手を取ることもあって家族に昼食の準備をお願いしたそうで美味しい昼食を作って下さった。何かあれば家族の協力が得られる関係づくりを日頃からしている。このホームの特長として「食べる楽しみ」がある。毎食5種類のおかずは欠かさずことなく、肉や魚と野菜を上手く組み合わせた献立で提供する。又、食事の時間とおやつ時間はたっぷり時間をとり、皆で話し合いをしながら、およそ一時間余り皆で良く話しをする。職員がコミュニケーションのきっかけづくりをうまくして利用者から話しを聞き出したり、利用者同士で話し合う習慣がある。

特に改善の余地があると思われる点

利用者は年々私たちが訪問する度に重度化していくことがわかる。利用者が元気な時も職員はその一人ひとりを満足させるケアは大変だと思うが、重症化し、コミュニケーションが難しくなると、その人の気持ちを知ることも難しくなっていくが、それに応じた対応の仕方は介護のプロとしては知っておかねばならない。職員のケアの質の向上は、認知症の症状の変化に応じたケアについて何が必要かをよく知っておくことだろうと考えている。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：昨年度、2つのホームが合体として、1つのグループホームとして出発した時に、職員全員で新しく理念を作った。この理念はリビングルームに掲げ、ホームのたよりに掲載して家族や地域にも公表してホームの特長を示した。この理念が実質的なケアに結びついていき、更に充実した認知症ケアに発展するよう期待している。</p> <p>2、全体的に見て…：「自分らしさ、生き甲斐、人間関係、学ぶ暮し」の実現に努力しようと考えている。認知症の人である前に、人間として大切に暮らして貰いたいとする目標は素晴らしい。認知症という状態になっても、一人の人間として、お互いに生活していこうとする考えが、介護の職場に浸透して、本人も家族も楽しく過ごしていける暮らしが嬉しく思う。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームのハード面を改善しなければならない点は何もない。折角造られたホームの建物及び設備のある空間を利用者がどう使いこなしているか、利用者と職員の生活動線の広がりなどがどうか、これらがソフトな生活空間となる。このホームはこの考え方を満たしていると思う。</p> <p>2、全体的に見て…：“うぐいす”ユニットは広い共用空間があり、食堂・ソファ部分・畳敷きのゾーンがある。2つのユニットの共同生活空間にもなる。今日は、保育園児20数名が訪れ、利用者と交流した。このような時でもこの空間を使える事をみると、ボランティアの慰問・ミニ運動会・お祭り等、このホームの中でも開催して楽しむ事が出来る。外は母体全体が一山の中に点在しており、その中を散歩したり、他の施設との交流も出来ていた。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：介護計画や記録の様式と方法についても改良を加えて、より効果的なケアに結び付けている。食事や水分、排泄等、利用者の楽しみと健康についても配慮している。特に食事とおやつ時間は食堂テーブルでゆっくりした時間を取り、利用者同士又は職員と利用者のコミュニケーションに当たっている。ケアの基本を一日の中でしっかりと実践している姿を見る事が出来た。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者の尊厳を大切にしている場面を紹介すると「一人の人間がトイレを使った後のケアとして、トイレを綺麗にしておく。次に入る人に気持ちよく使って貰えるようにね」と管理者は言う。排泄した人の尊厳を大切に、他人に迷惑を掛けないという姿勢、トイレに行った人が気持ちよく使えるという、どちらも人の気持ちを大切にしている。又、便器に座った時、必ずバスタオルを掛けてあげる事も、励行している配慮が嬉しい。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善する所はない。2つのユニットの特長を生かしていきつき、両ユニットが認知症ケアの真髄を目指して質の向上を目指そうとしている。家族との関係は、2つのユニットで格差があるが、家族の事情もあるので、家族との協力関係を運営推進会議を通じても改良していければ良い。</p> <p>2、全体的に見て…：運営推進会議も毎回ざっくばらんな雰囲気で開催している。このホームは母体の特養ホームとの関係もあり、地域への連帯を広げる必要性については法人全体で考える要素でもある。しかし、推進会議の積み重ねによって慰安訪問等も増えているので、委員も広い範囲からか入ってもらおうと又良い触れ合いが出来ると思う。</p>		